

流通科学大学 人材育成に関するアンケート調査  
2025 年度調査報告書

2025 年 9 月 流通科学大学

## 目次

|                                               |     |
|-----------------------------------------------|-----|
| I. 調査の概要                                      | P.2 |
| II. 調査結果の概要                                   | P.3 |
| 1 本学出身者の汎用的能力の習熟度に関する企業の評価                    | P.3 |
| 2 出身の学部学科にかかわらず求められる知識や能力の、本学出身者の習得度に関する企業の評価 | P.4 |

## I. 調査の概要

### ・調査の目的

企業の採用担当者が、本学の全学共通のディプロマポリシーに示された汎用的な資質・能力、その他の資質・能力についてどのような認識を有しているかを調査することにより、本学における教育の成果・効果を検証するとともに、本学における教育の一層の改善・向上を図るための資料とすることを目的とする。

### ・調査対象

近年に本学卒業生の採用実績のある企業を中心とする、本学キャリア支援課と接点のある企業の採用担当者

### ・調査方法

回答フォームの URL ・QR コードを記載した依頼書を、本学を来訪した企業に対して手渡しして依頼

### ・調査期間

2025 年 6 月～2025 年 9 月

### ・調査項目

次のような資質・能力について、本学の出身者は全般的にそれらの知識や能力を学生時代にどの程度身につけているとの印象をもっているかを問う。

◇本学ディプロマポリシーに示された資質・能力のうち「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけおくべき資質・能力」

◇その他、出身の学部・学科にかかわらず求められる知識やスキル

### ・回収状況

回答企業数 23 社

## Ⅱ 調査結果の概要

### 1. 本学出身者の汎用的能力の習得度に関する企業の評価

問1 採用や人材育成に関わっておられる中で、本学の卒業生は全般的に、下記のような資質や能力を学生時代にどの程度身につけているとの印象をお持ちですか。

本学ディプロマポリシーに示された資質・能力のうち、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」の各項目について、本学の出身者はどの程度身につけているかについて、企業の採用担当者はどのように評価しているのかを調査した。その集計結果は表1のとおりである。

表1 本学出身者の汎用的能力の習得度に関する企業の評価

|                               |                                                                      | 十分に身につけている | ある程度身につけている | あまり身につけてない | まったく身につけていない | 有効回答数 |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------|------------|-------------|------------|--------------|-------|
|                               |                                                                      | (A)        | (B)         | (C)        | (D)          |       |
| 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材     |                                                                      |            |             |            |              |       |
| ①                             | 夢や志を持ち、明るく元気でどこに出ても物怖じすることなく、誰ともしっかり言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜くことができる。 | 52.2%      | 47.8%       | 0.0%       | 0.0%         | 23    |
| 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材 |                                                                      |            |             |            |              |       |
| ②                             | 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)                 | 17.4%      | 78.3%       | 4.3%       | 0.0%         | 23    |
| ③                             | 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる(情報分析力)                            | 21.7%      | 52.2%       | 26.1%      | 0.0%         | 23    |
| ④                             | 3. 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)              | 21.7%      | 60.9%       | 17.4%      | 0.0%         | 23    |
| ⑤                             | さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力) | 17.4%      | 69.6%       | 13.0%      | 0.0%         | 23    |
| 創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材        |                                                                      |            |             |            |              |       |
| ⑥                             | 新しい視点と豊かな発想によって、新しい価値を生み出すことができる<br>自主・自立の精神を持った人材                   | 13.0%      | 69.6%       | 17.4%      | 0.0%         | 23    |
| 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材      |                                                                      |            |             |            |              |       |
| ⑦                             | 物事に自ら進んで取り組むことができる                                                   | 56.5%      | 43.5%       | 0.0%       | 0.0%         | 23    |
| ⑧                             | 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができる                                    | 21.7%      | 73.9%       | 4.3%       | 0.0%         | 23    |
| ⑨                             | 自ら課題を設定し、それを解決に結びつけることができる                                           | 21.7%      | 65.2%       | 13.0%      | 0.0%         | 23    |
| 他者と協同して、物事を成し遂げることができる人材      |                                                                      |            |             |            |              |       |
| ⑩                             | 他者に働きかけ、協力を取りつけることができる                                               | 47.8%      | 52.2%       | 0.0%       | 0.0%         | 23    |
| ⑪                             | 他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる                                 | 52.2%      | 47.8%       | 0.0%       | 0.0%         | 23    |
| ⑫                             | 自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる                         | 65.2%      | 34.8%       | 0.0%       | 0.0%         | 23    |
| ⑬                             | 他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる                                            | 60.9%      | 39.1%       | 0.0%       | 0.0%         | 23    |

「「ネアカ のびのび へこたれず」の精神をもった人材か」を問う設問(①)においては、全ての企業が「十分に身につけている」もしくは「ある程度身につけている」と評価している。これに対し、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材か」「創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材か」を問う各設問(②～⑤)においては、「あまり身につけていない」との回答が他の項目より相対的に高く、中には25%を超えるものもあった。「自主・自立の精神を持った人材か」「仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材か」を問う各設問(⑦～⑬)では、⑨を除く全ての設問で、「十分に身につけている」と「ある程度身につけている」を合算した数値が95%を超えている。これらの結果から、本学の卒業生は、同僚と協調・協同しながら前向きに取り組んでいる点について高く評価されている一方、情報を適切に収集し分析した上での課題発見・改善提案を業務上行えているか(論理的思考)という点で、やや改善の余地が見られる。

## 2. 出身の学部学科にかかわらず求められる知識や能力の、本学出身者の習得度に関する企業の評価

問2 採用や人材育成に関わっておられる中で、本学の卒業生は全般的に、下記のような知識や能力を学生時代にどの程度身につけているとの印象をお持ちですか。

出身の学部・学科にかかわらず求められる知識や能力を本学の出身者がどの程度身につけることができているかについて、企業の採用担当者はどのように評価しているのかを調査したものである。その集計結果は表2のとおりである。

表2 知識や能力についての本学出身者の習得度に関する企業の評価

|   |                                                                                          | 十分に身につけている | ある程度身につけている | あまり身につけてない | まったく身につけていない | 有効回答数 |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-------------|------------|--------------|-------|
|   |                                                                                          | (A)        | (B)         | (C)        | (D)          |       |
| ⑭ | 企業活動全般にかかわる社会科学系の科目に関する基礎的な広い知識                                                          | 34.8%      | 47.8%       | 17.4%      | 0.0%         | 23    |
| ⑮ | 学部・学科で学ぶ専門科目に関する基礎的な知識                                                                   | 21.7%      | 69.6%       | 8.7%       | 0.0%         | 23    |
| ⑯ | 学部・学科で学ぶ専門科目に関する実践的な知識                                                                   | 26.1%      | 47.8%       | 26.1%      | 0.0%         | 23    |
| ⑰ | 学部・学科で学ぶ専門科目に関する体系的・理論的な深い知識                                                             | 17.4%      | 60.9%       | 21.7%      | 0.0%         | 23    |
| ⑱ | Excel や Word, PowerPoint などの汎用的なソフトを使って社内文書・資料を作成するための知識・能力                              | 21.7%      | 73.9%       | 4.3%       | 0.0%         | 23    |
| ⑲ | Excel や Word, PowerPoint などの汎用的なソフトを使って、プレゼンテーション資料、営業ツールなど対外的に使用する文書・資料を作成することができる知識・能力 | 17.4%      | 73.9%       | 8.7%       | 0.0%         | 23    |
| ⑳ | Excel, Access などの汎用的なソフトを使って、データを集計、分析することができる知識・能力                                      | 8.7%       | 69.6%       | 13.0%      | 8.7%         | 23    |
| ㉑ | 社内文書の内容を理解し、具体的な行動につなげることができる力                                                           | 26.1%      | 60.9%       | 13.0%      | 0.0%         | 23    |
| ㉒ | 新聞、雑誌などの記事の内容を理解し、業務に活かすことができる力                                                          | 4.3%       | 65.2%       | 30.4%      | 0.0%         | 23    |
| ㉓ | 社内での対話を円滑に行い、具体的な行動や成果につなげることができる力                                                       | 69.6%      | 30.4%       | 0.0%       | 0.0%         | 23    |
| ㉔ | 社内外でのプレゼンテーションを効果的に行い、他者の行動を促す力                                                          | 34.8%      | 47.8%       | 13.0%      | 4.3%         | 23    |
| ㉕ | 外国語によって社内外のコミュニケーションを図るための基礎的な能力                                                         | 4.3%       | 39.1%       | 47.8%      | 8.7%         | 23    |
| ㉖ | ビジネスパーソンとしての基本的なマナー                                                                      | 52.2%      | 43.5%       | 4.3%       | 0.0%         | 23    |

多くの項目で、「十分に身につけている」と「ある程度身につけている」を合算すると80%以上である。「ある程度身につけている」が大半を占めるものの、Excel、Word、PowerPointなどの汎用的なソフトを活用するスキルにおいても、一定程度の評価を得ている。一方、身につけられていない知識や力、つまり「あまり身につけてない」と「まったく身につけていない」の合算値が高かった項目は、高い順に「外国語によって社内外のコミュニケーションを図るための基礎的な能力」「新聞、雑誌などの記事の内容を理解し、業務に活かすことができる力」「学部・学科で学ぶ専門科目に関する実践的な知識」であった。

以上